A =36 t = 41	I I I I I I I I I I I I I I I I I I I
会議名称	加古川市労政審議会
開催日時	令和元年8月28日(水)午前10時から午前11時25分まで
開催場所	加古川市立勤労会館 101会議室
出 席 者	<委 員>
	山口 光一会長、土方 直子副会長、寺井 克浩委員、溝上 清隆委員、
	貝川 清文委員、高浜 佳司委員、中尾 るみ子委員、山本 亜也夫委
	員、前島 克彦委員、岡田 陽平委員、冨澤 克彦委員、住本 昌彦委
	<事務局>
	小野産業経済部長、長谷川産業振興課長、岸本労働政策係長、
	北野主事
会議次第	1 開会
	(1) 産業経済部長あいさつ
	(2) 委員紹介及び事務局紹介
	(3) 会長あいさつ
	2 議事
	(1) 諮問事項
	(2) 報告事項
	① 平成30年度労働政策実績報告について
	② 令和元年度新規事業について
	③ 加古川地域労働市場について
	④ 勤労会館利用状況について
	(3) その他
	3 閉会

審議内容	
1 開 会	
(1)産業経済部長あいさつ	
・小野産業経済部長あいさつ	
(の) ヘミナンナ 。	
<u>(3) 会長あいさつ</u>	
・山口会長あいさつ	
2 議事	
_(1) 諮問事項	
① 「働き方改革」の実現に向けた労働政策について	
・委員にて協議	

## (意見)

## (委 員)

- ・年間5日以上の有給休暇取得の義務付けにより、全社員の労働 生産性向上が求められる。
- ・生産性向上のためには投資が必要となる。幅広い用途に活用できる補助金制度について検討してはどうか。
- ・サービス業においては、製造業のように在庫管理による労働時間の調整が困難であり、繁忙期には長時間労働が生じてしまう。 労働者の対価を労働時間以外ではかる方法を考える必要がある。
- ・働き方改革の実現に向けては、企業の業種や規模によっても 状況は様々である。それぞれの抱える状況を踏まえて考えて いく必要がある。
- ・働き方改革の推進においては、もっと働きたいという人の気 持ちも尊重する必要がある。
- ・インターンシップ等を通じ、若者が働くことの価値、働き甲 斐、何のために働くのかということについて、考える機会を 提供する必要があるのではないか。
- ・求人サイトには、月間残業時間なども掲載が必要となっており、学生はそのような数字を意識している。世の中の流れもそのようになっているので、学生が非常に気にしているというのは事実である。SNSの広がりもあり、残業が多い企業の情報交換などもされており、企業を選ぶ上での基準となっている。また、女子学生は結婚後も仕事を続けられるか、育児休業の取得状況などもよく気にしている。
- ・中小企業は大企業に比べ、資本量も小さく、人手不足も深刻 であることから、働き方改革の推進における行政の責任は大 きい。
- ・働き方改革の推進における他の自治体の先進的な取り組みを 参考に、より一層の推進に努めてほしい。(市独自の相談セミ ナーの実施、企業への助成、県補助事業への随伴等)
- ・働き方改革は大企業向けの制度であり、中小企業にも同じことをさせようとするのは課題が多い。大手企業と中小企業とのギャップに目を向けてほしい。業種や規模によって環境は全く異なるにもかかわらず、同じ制度というのは課題が多いと感じる。
- ・いかなる制度であっても、適切な広報、周知が肝心であり、 制度のことを知らなかったと言われないよう、広報、周知に 努めてほしい。

## (2)報告事項

① 平成30年度労働政策実績報告について

(事務局)	・労働相談、JOBフェア、インターンシップ支援事業(イン
	ターンシップフェスティバル、親のための就活セミナー)、
	ぐうっと!かこがわ奨学金返還支援事業について報告
	② 令和元年度新規事業について
(事務局)	・平成30年度加古川市労政審議会における諮問「移住・定住
	につながる労働政策について」に対する答申に基づき実施す
	る新規事業(加古川市雇用対策協定の締結、インターンシッ
	プ受入の拡大、「ぐうっと!かこがわ奨学金返還支援補助金」
	制度拡充)、「移住・就業支援事業」の実施について報告、
	③ 加古川地域労働市場について
(委 員)	・加古川地域の求人、雇用状況等について報告
	<ul><li>④ 勤労会館利用状況について</li></ul>
(事務局)	・会館利用状況について報告
(3.3,3,1.3)	
	(3) その他
	(事務連絡)
(事務局)	・加古川市のふるさと寄附制度について告知
( + 4/1/141/	WITH AND COMMINATE OF CITY
	3 閉 会
	3
	上/川